

胃がんリスク層別化検査(ABC分類)で、 胃の健康度をチェック!!

2つの血液検査の結果から、胃がんのリスクを分類します。

胃がんリスク層別化検査は、血液を採取し、ピロリ菌IgG抗体検査と
ペプシノゲン検査を行い、胃がんリスクを下記のA～D群に分類します。

検査結果による分類

		抗ヘリコバクターピロリIgG抗体	
		(-)	(+)
ペ プ シ ノ ゲ ン	(-)	A 	B 
	(+)	D 	C 

各群の内容*

A群



おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意しましょう。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往のある方が含まれます。一度は内視鏡検査等の画像検査を受ける事が理想的です。

B群



少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。胃がんのリスクもあります。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

C群



萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

D群



萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌感染診断をお勧めします。かならず専門医療機関で内視鏡など診断を受けご相談ください。

● ヘリコバクターピロリIgG抗体検査

胃にピロリ菌が感染していないか調べる検査です。ピロリ菌は胃粘膜にダメージを与え、さまざまな病気の引きがねになると考えられています。

● ペプシノゲン検査

胃粘膜の萎縮(老化)の状態を調べる検査で、胃がん検診にも応用されています。萎縮が進んだ胃は、胃がんになりやすいといわれています。

注意事項

以下の場合には正しい結果が得られない可能性がありますので、担当医にご相談願います。

- ピロリ菌の除菌治療を受けた方
- 胃の病気を治療中の方
- 胃酸を押さえる薬を服用中の方
- 胃切除後の方
- 腎不全の方



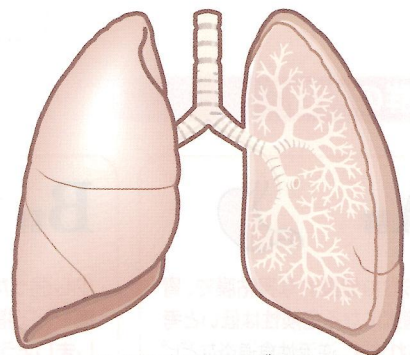
肺がんは固形がん種の中でも死亡率が1番高いと言われ、
早期発見であっても治療が困難であることが多いと一般的に言われています。

肺がん腫瘍マーカー CYFRA

を受診してみませんか？

肺がん腫瘍マーカー CYFRAとは？

喫煙と関係性が強く、男性の肺がんの約40%を占める
扁平性上皮肺癌において高値をしめし、
有用とされる腫瘍マーカーです。



※イラストはイメージです。

採血だけで、検査をすることができます。

- 喫煙者の方に受診をおすすめしています。
- 健診・人間ドックのオプション検査として検査可能です。
- 結果について高値であった場合、精密検査の受診をおすすめいたします。

検査に関するお問い合わせ



一般財団法人 全日本労働福祉協会 渉外部

☎03-5767-1714